

【担当教員名】 阿部明美	対象学年	1	対象学科	看護
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	60

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

人々の健康を促進するために必要な看護実践の基礎となる知識・技術・態度を修得する。看護ケアを必要としている人々や医療場面の特徴と援助の意義および具体的な実践方法を、理論的根拠を踏まえて学習する。その上で、実際に技術演習を行い、より専門的な看護技術の基盤となる基礎的な看護技術の修得を目指す。基礎看護技術演習Ⅰでは、日常生活の援助技術を中心に学習する。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 看護技術の考え方について説明できる。
2. ガイダンスを通して、基本的な演習への臨み方・実習室の使用方法について説明できる。
3. 看護技術を必要とする人々の特徴が述べられる。
4. それぞれの看護技術の効果と適用が述べられる。
5. それぞれの看護技術の原理原則および実施手順・留意点が述べられる。
6. 看護技術実施時の倫理的配慮について述べられる。
7. 原理原則をふまえ、安全安楽・倫理的配慮を考慮した援助が実施できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1, 2	1. 看護技術とは、演習ガイダンス	1, 2	講義
3, 4	2. 生活環境に関する看護技術	3~6	講義
5, 6	3. 活動・休息に関する看護技術	3~6	講義
7-10	<演習> ・ボディメカニクス ・臥床患者のシーツ交換 ・体位変換 ・移送（車椅子移送、ストレッチャー移送）	3~7	演習
11-13	4. 清潔・衣生活に関する看護技術	3~6	講義
14-17	<演習> ・全身清拭 ・足浴 ・洗髪 ・寝衣交換	3~7	演習
18	5. 食事に関する看護技術	3~6	講義
19, 20	<演習> ・食事介助 ・口腔ケア	3~7	演習
21	6. 排泄に関する看護技術	3~6	講義
22	<演習> ・便・尿器の使い方	3~7	演習
23-25	7. 安全と安楽に関する看護技術	3~6	講義
26, 27	<演習> ・無菌操作 ・電法 ・ガウンテクニック	3~7	演習
28, 29	<<技術試験>>		
30	<<筆記試験>>		

（演習は基礎看護学全教員が担当）

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 （必ず購入する書籍）	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ	藤崎郁他	医学書院	2007 2,600円＋税
	系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅱ	藤崎郁他	医学書院	2007 2,800円＋税
参考書	随時提示する。			
その他の資料	ビデオ プリント類			

【評価方法】

出席状況・演習レポート（10%）
筆記試験（90%）
※技術試験を別に実施。技術試験に合格することを単位履修の前提とする。

【履修上の留意点】

1. 演習への参加は必須であり、積極的に取り組むこと。
2. ビデオその他の副教材も活用し、繰り返し演習することが望ましい。